

0680 | 工芸 I

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

牧野良三教授、小林良一講師

授業の概要と目標

私たちの暮らしは、衣食住のさまざまな局面で西欧化の道を辿ってきた。しかし、一方では日本の伝統的な習慣や事物も根強く受け継がれ、今日的生活文化を豊かなものになっている。様々な生活用品も、大量生産による工業製品によってその多くを占められているが、日本の各地で発展継承された地域の産業によって供給されているものも少なくない。しかし、生活様式などを含めた社会の激しい変動は、この地域の産業と生活者の関係を希薄にし、将来を楽観できない状況にまで追い込んでいる。デザインの役割の一つはこの伝統的産業に現代的意味を見だし活性化させることだと言える。それには、地元産業への深い理解とともに、良質の生活観から提言される新たなライフスタイルと産業が濃密に関係することが重要である。

この授業は、日本各地の地域の工芸に注目し、その調査から「工芸」の現代的意味を探るとともに、ハンドクラフト、工業製品などとの関係、地域の工芸の将来、製品デザインの在り方を考察することを内容としている。なお、教職「工芸」の鑑賞に対応している。

課題の概要

○面接授業課題

「見学と体験」工芸品の生産現場や博物館、資料館などの見学・体験、ライフスタイルショップの見学など幅広く工芸の有り様に直接ふれ、日本人の美意識を形成する伝統と現代のライフスタイルを考察。最終日に「工芸のあり方」の提言を 2000 字程度のレポートにまとめる。

○通信授業課題

「デザイン調査」居住する地域や近在の産業として営まれている工芸を俯瞰し、また生産現場を見学して記録するとともに、自分自身でその製品を使用してデザインを分析、考察しレポートにまとめる。
*課題については学習指導書『工芸 I・II 2019 年度』を必ず参照すること。

授業計画

面接授業



通信授業

[面接授業]

第 1 日：工場見学

第 2 日：見学した工場に関連した展示等の見学

第 3 日：授業のまとめ

面接授業の内容は受講者数や見学先の都合、面接授業の日程により変更することがある。

[通信授業]

工芸品の産業的調査及び製品のデザインの調査・分析をし、レポートとしてまとめる。

成績評価の方法

通信授業、面接授業の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わないが、製図やレンダリング等の技能が要求されるので、「図法製図 I・II」の単位を修得しているか、同時に履修することが望ましい。

工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 I・II 等の履修を勧める。

本科目と併せて「民芸論」、「工業技術概論」を履修すれば理解が深まるだろう。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

教材等

教科書：横溝健志監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：『工芸 I・II 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

その他

学外見学とワークショップ等の場合もある。

0690 | 工芸 II

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

牧野良三教授、河村要講師、野田昇一郎講師、大野洋平講師

授業の概要と目標

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作することである。そこでは、材料の特性を生かし、合理的に用途を満たしつつ、生活に潤いをもたらす造形の美しさが求められてきた。今日では、手工業的に制作されてきた用具の大半は機械工業的生産方法に代わってしまった感じすらある。新しい材料が開発され、工業的な生産技術による量的規模が拡大しても、人と用具との関係は変わることなく、その造形的な美しさに生活の潤いを求めている。この科目では、日本の伝統的な自然素材を使用し、工芸の手法を活かしながら、用具（照明器具）と現代の生活の関わりを考察して新たなデザイン提案と制作をする。なお、教職「工芸」の学習に求められるプロダクト制作とデザイン表現に対応している。

課題の概要

○面接授業課題

「照明器具（スタンドライト）のデザイン」

面接授業で、日本の伝統的素材である和紙を主材料に、生活空間の照明器具（スタンドライト）をデザインし制作する。照明は、その使われる場や用途（玄関や居間といった）によって様々な性能や効果が求められる。その照明が使用される状況を良く想像しながらデザインし、和紙の特性、風合いを生かした造形性と共に、あかりを点灯した時の光の効果も含めた創造性ある照明器具を制作する。その際には少量でも良いが、生産性を考慮に入れたプロダクトデザインの考えで実施する。

○通信授業課題

「照明器具（スタンドライト）のリデザインとその説明資料の作成」

面接授業で制作した照明器具を講評にしたがって改良（リデザイン）し、デザインの主旨や特徴、図面、写真などを内容とするデザインの説明書を提出する。プロダクト制作に求められるのは、デザインの主要な要件（目的性、機能性、生産性、流通、造形様式など）への見識であり、またデザインの表現（製図やレンダリングなど）技術の習得でもある。ここではその基本的な技術に触れつつ各自のデザインの全体像を構築する。

* 課題については学習指導書『工芸 I・II 2019 年度』を必ず参照すること。

授業計画



面接授業で具体的な現物の制作を行い、続いて通信授業でそのデザインを総括するという順序で学習する。

尚、面接授業の受講前には予習課題があるので、学習指導書・工芸 II の面接授業前予習課題の項を予習する。

[予習課題]

予習課題では、照明器具（スタンドライト）に関するコンセプトの作成と、そのアイデアのスケッチを 5 点作成し、面接授業初日に持参する。

[面接授業]

面接授業では、前提講義で照明の基礎的知識と和紙について講義があり、続いてスケッチによる照明器具の構想、現物の制作を展開し講評に至る。和紙や器具などの主要な材料は大学が用意する。

[通信授業]

面接授業における講評をふまえ、自宅でデザインの改良を試み、その結果を図面や写真を添付したリデザインの説明資料で報告する。

成績評価の方法

面接授業の評価と通信授業の評価の平均を原則とする。

履修条件及び履修年次 [履修年次] 1～4年次
[履修条件] なし
[備考] 履修年次は問わないが、製図やレンダリング等の技能が要求されるので、「図法製図Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得しているか、同時に履修することが望ましい。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、「工芸Ⅰ・Ⅱ」及び、素材別基礎実習Ⅰ・Ⅱ等の履修を勧める。
本科目と併せて「民芸論」、「工業技術概論」を履修すれば理解が深まるだろう。

教材等 教科書：横溝健志監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002年）
学習指導書：『工芸Ⅰ・Ⅱ 2019年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年）

その他 通信授業課題は、面接授業受講後2ヶ月を目途に提出する。
参考資料：横溝健志監修、小石新八編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

2370 | テキスタイル基礎実習 I

2 単位 (面接授業 2 単位)

鈴木純子准教授

授業の概要と目標

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、テキスタイルの基礎技術である、オフルームによるタペストリーの制作をとおして、その歴史と技法を学ぶ。オフルームとは織機 (LOOM) を使わない織りの技法で、木枠の道具を使い、織る、結ぶなどの技法により表現の違いを学ぶ。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸Ⅲ」素材別テキスタイルクラスの〈OFF LOOM〉とほぼ同一の内容である。

課題の概要

○面接授業課題

アートへの展開とタペストリー制作の為の OFF LOOM 研究

授業計画

[面接授業]

〈OFF LOOM〉

1. タペストリーの技法の講義、フリードローイング、トリミングから制作
2. OFF LOOM による製織
3. 作品制作 (2 点)、プレゼンテーション、講評

成績評価の方法

面接授業の最終日に提出された作品やプレゼンテーションで評価し、授業態度等を加味する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

- ・ 2013 年度まで開設の「工芸Ⅲ」テキスタイルクラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
- ・ 受講人数を制限する場合がある。
- ・ 工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース進学希望者で、クラフトデザイン系テキスタイルクラスを選択する場合は、1・2 年次において「テキスタイル基礎実習 I・II」を履修していることが望ましい。
- ・ 工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 I・II の科目の他、工芸 I・II の履修を勧める。

教材等

参考資料：田中秀穂 監修『テキスタイル 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2007 年）

2380 | テキスタイル基礎実習 II

2 単位（面接授業 2 単位）

鈴木純子准教授

授業の概要と目標

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、テキスタイルの基礎技術である、布（織物）の構造としての組織を学び、織組織と色彩効果の理解を深める。さらに模様を織り出す技法として、昼夜織によるタペストリーを制作する。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸 III」素材別テキスタイルクラス及び、2017 年度までの「テキスタイル基礎実習 I」の〈織〉とほぼ同一の内容である。

課題の概要

○面接授業課題

布を成立させる〈織〉の構造〈組織〉と並置混色研究

授業計画

[面接授業]

〈織〉

1. 織の構造と色彩の講義
製織準備
2. 卓上機による製織
3. 作品制作（2点）、プレゼンテーション、講評

成績評価の方法

面接授業の最終日に提出された作品やプレゼンテーションで評価し、授業態度等を加味する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

- ・2013 年度まで開設の「工芸 III」テキスタイルクラス及び、2017 年度までの「テキスタイル基礎実習 I」の受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
- ・受講人数を制限する場合がある。
- ・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース進学希望者で、クラフトデザイン系テキスタイルクラスを選択する場合は、1・2 年次において「テキスタイル基礎実習 I・II」を履修していることが望ましい。
- ・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 I・II の科目の他、「工芸 I・II」の履修を勧める。

教材等

参考資料：田中秀穂 監修『テキスタイル 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2007 年）

2410 | 陶磁基礎実習 I

2 単位 (面接授業 2 単位)

西川聡教授

授業の概要と目標

工芸は、自然からもたらされた素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変り様が工芸の変遷を形成するが、元来自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらに今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、陶磁器制作における最も基本的な要件である素材の特性を知るために、各自が粘土を調整し、制作に必要な均質性、柔らかさを出すための練りかたを実習する。さらに、手びねり、ヒモ作り、輪積み、板作り、接合、印花、布目、押し出し等あらゆる技法を実習し、手をとおして素材を理解する。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸Ⅲ」の素材別陶磁クラスと同一の内容である。

課題の概要

○面接授業課題

日常的に使う事務用品、洗面用具、調理具等を立てておく器 (歯ブラシ立て、箸・スプーン立て等) のデザインと制作。

授業計画

[面接授業]

- ・作品形状、製作技法に適した粘土調整をおこなう
- ・制作に必要な均質性と柔らかさを出すための練りの実習
- ・手びねり、ヒモ作り、輪積み、板作り、接合、印花、布目、押し出し等の技法を実習し、課題を制作

成績評価の方法

面接授業の最終日に提出された作品で評価し、授業態度等を加味する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

- ・2013 年度まで開設の「工芸 III」陶磁クラスを受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
- ・受講人数を制限する場合がある。
- ・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース進学希望者で、クラフトデザイン系陶磁クラスを選択する場合は、1・2 年次において「陶磁基礎実習 I・II」を履修していることが望ましい。
- ・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 I・II の科目の他、「工芸 I・II」の履修を勧める。

教材等

参考資料：横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

小松誠 監修『陶磁 発想と手法』（武蔵野美術大学出版局 2009 年）

2420

陶磁基礎実習 II

2 単位 (面接授業 2 単位)

西川聡教授

授業の概要と目標

工芸は、自然からもたらされた素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、元来自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらに今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、陶磁器制作における最も基本的な要件である素材の特性を知るために、各自が粘土を調整し、制作に必要な均質性、柔らかさを出すための練りかたを実習する。ここでは、造形表現の面白い可能性を持っているさまざまな土の板の作り方を実習。粘土板(たたら)による成型法と造形表現を学ぶ。

なお、この科目は2013年度まで開設された「工芸Ⅳ」の素材別陶磁クラスと同一の内容である。

課題の概要

○面接授業課題

粘土板(たたら)成形法による花器のデザインと制作

授業計画

[面接授業]

- ・作品形状、製作技法に適した粘土調整をおこなう
- ・制作に必要な均質性と柔らかさを出すための練りの実習
- ・花器のデザインと制作

成績評価の方法

面接授業の最終日に提出された作品で評価し、授業態度等を加味する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

- ・2013年度まで開設の「工芸Ⅳ」陶磁クラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
- ・受講人数を制限する場合がある。
- ・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース進学希望者で、クラフトデザイン系陶磁クラスを選択する場合は、1・2年次において「陶磁基礎実習Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。
- ・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習Ⅰ・Ⅱの科目の他、「工芸Ⅰ・Ⅱ」の履修を勧める。

教材等

参考資料：横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

小松誠 監修『陶磁 発想と手法』（武蔵野美術大学出版局 2009年）

2390 | 金工基礎実習 I

2 単位 (面接授業 2 単位)

鈴木洋教授、高橋勇一郎講師

授業の概要と目標

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、金属加工用の槌、当金等を使用し、銅板を槌起加工と焼鈍をくり返し、平面から立体へ成形する鍛金技法を習得する。板金絞り加工による器の制作を通して金属の焼鈍による組織の軟化、展延性の向上と、加工硬化の特性を理解し、鍛金による造形の可能性を研究する。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸Ⅲ」の素材別金工クラスと同一の内容である。

課題の概要

○面接授業課題

鍛金技法により銅板素材から容器を制作する

授業計画

[面接授業]

- ・容器のデザインと型紙の作図、制作
- ・銅板を槌起加工と焼鈍をくり返し行い、容器を制作

成績評価の方法

面接授業の最終日に提出された図面や作品で評価し、授業態度等を加味する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備考] 履修年次は問わない。

- ・2013 年度まで開設の「工芸Ⅲ」金工クラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
- ・受講人数を制限する場合がある。
- ・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習Ⅰ・Ⅱの科目の他、「工芸Ⅰ・Ⅱ」の履修を勧める。

教材等

参考資料：横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

2400

金工基礎実習 II

2 単位（面接授業 2 単位）

鈴木洋教授、高橋勇一郎講師

授業の概要と目標

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、ガラスが金属に焼き付くと言う特性を理解し、七宝技法のひとつである、有線七宝を学んでいく。これにより、基礎知識、技法の習得、色彩造形を体験し、探求することを目的とする。

課題の概要

○面接授業課題

有線七宝による平面作品の制作

授業計画

[面接授業]

ガイダンス、技法について

エスキースチェック、素地作り、下地焼成

銀線植線→焼成

釉薬施釉→焼成（3回）

研磨

仕上げ

成績評価の方法

面接授業の最終日に提出された図面や作品で評価し、授業態度等を加味する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

・受講人数を制限する場合がある。

・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 I・II の科目の他、「工芸 I・II」の履修を勧める。

教材等

参考資料：横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

2430 | 木工基礎実習 I

2 単位（面接授業 2 単位）

十時啓悦教授

授業の概要と目標

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では木の加工の原初的手法である鑿、鉋などを使用した手彫りによる制作を通して、木が繊維素材であることを理解する。また、刃物を使い木の塊を削り出すことで、木の温かさ、硬さ、など木材の性質を知る。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸Ⅲ」の素材別木工クラスと同一の内容である。

課題の概要

○面接授業課題

くりもの技法によるサラダボール、コンポートなどを制作

授業計画

[面接授業]

- ・デザインのアウトラインを木の塊に描く
- ・鋸、鑿等を使用し、器の形の荒削りを行う
- ・豆鉋などを使用して仕上げる

成績評価の方法

面接授業の最終日に提出された作品で評価し、授業態度等を加味する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

- ・2013 年度まで開設の「工芸Ⅲ」木工クラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
- ・受講人数を制限する場合がある。
- ・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 I・II の科目の他、工芸「I・II」の履修を勧める。

教材等

参考資料：横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

十時啓悦 監修『木工 樹をデザインする』（武蔵野美術大学出版局 2009 年）

2440 | 木工基礎実習 II

2 単位（面接授業 2 単位）

十時啓悦教授

授業の概要と目標

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、木の薄板の巻き上げ技法による器の制作を通して、木が繊維素材であることと理解と、造形の可能性を研究する。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸Ⅳ」の素材別木工クラスと同一の内容である。

課題の概要

○面接授業課題

帯状の単板を使用し、巻き上げ技法によりサラダボール、コンポートなどを制作する。

授業計画

[面接授業]

- ・器のデザインと断面図により、形を整える台（治具）を作る
- ・器の底板を作る
- ・帯状の単板を作り、底板に単板を巻き締める
- ・治具に合わせて形を整える
- ・内側、外側を豆鉋で削る
- ・サンディングにより仕上げる

成績評価の方法

面接授業の最終日に提出された作品で評価し、授業態度等を加味する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

- ・2013 年度まで開設の「工芸Ⅳ」木工クラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
- ・受講人数を制限する場合がある。
- ・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習Ⅰ・Ⅱの科目の他、「工芸Ⅰ・Ⅱ」の履修を勧める。

教材等

参考資料：横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

十時啓悦 監修『木工 樹をデザインする』（武蔵野美術大学出版局 2009 年）

2350

ガラス基礎実習Ⅰ

2 単位（面接授業 2 単位）

大村俊二教授

授業の概要と目標

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、加熱することで液体状態に柔らかくなるガラス素材の特性を理解し、ガラスの粉末、粒、板などをキルン（電気炉）内で加熱し、変形、熔着による成形加飾する技法を学ぶ。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸Ⅲ」の素材別ガラスクラスと同一の内容である。

課題の概要

○面接授業課題

キルンワークによる「菓子器」のデザイン・制作

授業計画

[面接授業]

- ・菓子器のデザインスケッチと配色イメージの作成
- ・型作り
- ・ガラス素材を配色イメージに合わせて配置
- ・キルンで加熱成形

成績評価の方法

面接授業の最終日に提出された図面や作品で評価し、授業態度等を加味する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

・2013 年度まで開設の「工芸Ⅲ」ガラスクラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。

・受講人数を制限する場合がある。

教材等

参考資料：横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

2360 | ガラス基礎実習 II

2 単位（面接授業 2 単位）

大村俊二教授

授業の概要と目標

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、板ガラスの加工方法と接合方法を習得し、伝統的なスタンドグラスの手法、また接着技法による照明器具を制作することで、ガラス素材の特性、光の透過による効果を理解し、場と「あかり」の関わり方を考察する。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸Ⅳ」の素材別ガラスクラスと同一の内容である。

課題の概要

○面接授業課題

生活用品としての機能を持った「あかり」のデザイン・制作

授業計画

[面接授業]

- ・「あかり」のデザイン、イメージスケッチ
- ・スケッチから、型紙図を作成しガラス板をカット
- ・コパーテープの貼り付けと半田付けにより組立、又は接着剤を用いて組立

成績評価の方法

面接授業の最終日に提出された作品やイメージボードで評価し、授業態度等を加味する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

・2013 年度まで開設の「工芸Ⅳ」ガラスクラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。

・受講人数を制限する場合がある。

教材等

参考資料：横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

0720 | デザイン I

2 単位 (面接授業 2 単位)

上原幸子教授、米徳信一教授

授業の概要と目標

デザイン I およびデザイン II は、広いデザインの領域から、物事を視覚的に人々に伝える役割を担ったヴィジュアル・コミュニケーションデザインを取り上げて学習します。

デザイン I では、従来からマスコミュニケーションの主要な媒体であった印刷メディアを軸に学習します。

現代の社会を成り立たせている膨大な量のさまざまな情報は、主に大量伝達を可能にした印刷物によってもたらされました。この授業は、ヴィジュアル・デザインの原形ともいえるべき広報を目的とした印刷の特性を踏まえ、さまざまな印刷媒体に求められる役割を認識し、その企画やイメージ表現の方法などを学習します。

印刷デザインの手法も今やデジタルが主流ですが、従来の手作業による制作 (アナログ) も変え難い表現方法としてヴィジュアル・デザインの世界を支えています。さまざまな画材は、文字やイラストレーションに個性を与え、微妙な情感を表現してきました。デジタルとの違いや、手作業のもつ魅力が再認識されつつあるといえます。授業は、このどちらかの方法を課題制作の手段として選択して行います。

課題の概要

○面接授業課題

「各自が生活している地域、グループなどのイベントを企画し、それを伝える印刷物をデザインする」というテーマで、文字やイラストレーション、写真などを駆使して制作します。

画材を用いる制作は、主にパネルに水張りしたケント紙などを用い、パソコンを利用する場合は、プリント出力とします。

なお、パソコンでの制作を選択する人は、イラストレーター・フォトショップなどの基本的な技術がマスターされていることが条件になります。

授業計画

[面接授業]

面接授業申込み時に、画材 (アナログ) で制作するかパソコン (デジタル) で制作するか表現技術選択をします。授業の前半はイベントの企画立案をし、ポスター、チラシ、ダイレクトメールなどの中から企画内容に合った適切な媒体を選定します。後半は企画時に決めた印刷媒体を受講前に選択した制作技術で制作します。

成績評価の方法

[面接授業] 制作したイベント企画書、ポスター、チラシ、ダイレクトメールなど完成作品の総合評価。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

教材等

学習指導書：『デザイン I・II 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

0730 | デザインII

2 単位 (通信授業 2 単位)

上原幸子教授、米徳信一教授、清水恒平准教授、丸田直美講師

授業の概要と目標

デザインIおよびデザインIIは、広いデザインの領域から、物事を視覚的に人々に伝える役割を担ったヴィジュアル・コミュニケーションデザインを取り上げ学習します。

デザインIでは従来からマスコミュニケーションの主要な媒体であった印刷メディアからポスターの制作を内容としましたが、デザインIIでは、今やコミュニケーション手段として主流となったコンピュータ・ネットワークをテーマとします。

コンピュータ・ネットワークの利用は、私達の日常生活に欠かせないものとなり、その特性を理解し、より良いデジタル環境を整えることがデザインに求められています。この授業は、Webデザインの制作を通して日々変化しつつあるインターネットの特性を認識し、テーマの構築やWebデザインの可能性を探ることを目標としています。また、デザインに求められる基本的な要件、企画力や表現力、インターフェイスとしての機能などについてあわせて学習します。

課題の概要

○通信授業課題1

Webページの企画と設計

「身の回りで見過ごしてしまうような事柄を掘り起こす」というテーマでWebページの企画を立案し、企画内容と設計方法を考えて企画書を作成します。

Webキャンパスのネットフォーラムを開設し、任意でテーマの選定や企画についての意見交換を行います。

Webページには「個人的な表現媒体」であることが特徴として挙げられますが、課題ではその特質を生かし、個人の趣味や生活、住環境などからテーマを定め、多くの人の関心が得られる内容に構成し、相応しい設計や表現を企画、制作して公開します。

○通信授業課題2

Webページの制作と公開

課題1で立案した企画をもとにWebページを制作し、各自の用意したWebサイト用領域にアップロードして公開します。

Webページの制作方法は、学習指導書を参考に各自の企画内容と経験に合わせた最適な方法を選択します。

※ 課題については、学習指導書『デザインI・II 2019年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

事前に教科書を精読し、学習指導書『デザインI・II 2019年度』に従って、Webページのテーマの立案、企画、設計、制作、公開を行います。

成績評価の方法

各課題の総合評価。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4年次

[履修条件] なし

[備考] 履修年次は問わない。日常的にパソコンでインターネットを利用し、Webサイトの閲覧や文書作成などの基本操作に親しんでいること。インターネットに接続でき、Webブラウザ、テキストエディタ、画像加工のソフトウェアを利用できること。可能であれば、Webサイト作成、ファイル転送のソフトウェアを利用できること、Webページをアップロードする自分のWebサイト用領域を用意できることが望ましい。

教材等

教科書：『Web インターフェイスで学ぶ インタラクションと情報のデザイン』（若林尚樹 オーム社 2011）
学習指導書：『デザインI・II 2019年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年）

0740 | ブックバインディング

2 単位（面接授業 2 単位）

田村裕教授、近藤理恵講師

授業の概要と目標

ブックバインディング授業の目的は、手製本の実践を通じて「もの」としての本の構造を知ることと、素材の性質を踏まえながら作業工程を慎重にこなし、製本作品を仕上げる技術の習得である。また導入講義では、製本構造について分析するとともに、本の歴史をたどり、手製本の工房の仕事を紹介する。

現在の本のかたちである冊子は西洋で 4 世紀頃から定着した。以来、製本の技術は、長い時を経て変化改良されつつも、製本工芸として受けつなげてきた。19 世紀末以降、機械製本が主流になっていっても、中身を綴じ表紙をつけるという基本的な製本構造は変わっていない。むしろ現代手製本の世界では、中世や東洋の製本構造に目を向け、応用する試みがなされている。日本の本は明治以降に、それまでの東洋式の製本から西洋式の冊子の形に変え、またそれが機械製本が始まる時代であったために、手製本の技術が広く浸透することがなかった。しかし図書館などで本の保管を考える時には本の構造の知識が役立ち、傷んだ本の手当てには製本の技術が必要である。

出版業界や司書など本に関わる分野で、「もの」としての本の構造を知っておくことは必要だと考えるが、一方、造形分野でも作品を本として仕立てたり、アーティスト・ブックを制作するなど表現手段としての可能性を持っている。またパソコンの普及により、個人で印刷までできるようになり、それをまとめる手段の製本もある。授業では製本の基礎を学ぶが、各自がそれぞれの本との関わりを再考し、本の世界への興味を新たに広げ、製本の可能性を探るきっかけになることを願う。

課題の概要

○面接授業課題 1

文庫本（ソフトカバー）の角背ハードカバー製本への改装。

○面接授業課題 2

和綴じ製本の製作。

○面接授業課題 3

折丁を糸綴じし、丸背ハードカバー製本を製作。保存函の製作。

授業計画

[面接授業]

- 1) 導入講義／本の構造を分析。本の歴史概説（製本工芸作品や現代手製本の紹介を含む）。紙の製法と分類概説。課題 1 文庫本の中身の処理
 - 2) 角背ハードカバーの表紙をつくり、中身に合わせる。課題 2 和綴じ製本。
 - 3) 課題 3 ①丸背ハードカバー製本の折丁を用意し、糸綴じをする。
 - 4) ②背の山出しをし、背堅めをする。
 - 5) ③ハードカバーの表紙をつくり中身に合わせる。
 - 6) 保存函の製作。タイトル入れなどの仕上げ作業。午後講評。
- ※ 注 各課題の工程は、準備段階を含め、平行して行われる場合もある。
 ※ スクーリング前に、参考書に限らず、本に関する図書に目を通しておきましょう。

成績評価の方法

講評による。課題 1 と課題 3 の 2 冊が評価の対象となる。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4 年次

[履修条件] 「造形基礎 I～IV」の単位を修得していること（3 年次編入学生を除く）。

[備 考] スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある（一開講につき 40 名程度）。

教材等

参考書：高宮利行『ゲーテンベルクの謎 活字メディアの誕生とその後』（岩波書店 1998 年）
 庄司浅水『本の五千年史 人間とのかかわりの中で』（東京書籍 1989 年）
 ブリュノ・ブラセル『本の歴史』木村恵一訳（創元社（「知の再発見」双書）1998 年）
 坂井えり『デジタル技術と手製本』（印刷学会出版部 2007 年）
 岩波書店編集部編『本ができるまで』（岩波ジュニア新書 2003 年）

0750 | 映像メディア表現Ⅰ

2 単位（通信授業 2 単位）

牧野良三教授、板屋緑教授、篠原規行教授、岡川純子講師

授業の概要と目標

映像とは、写真、映画、テレビ、ビデオなどを中心とした、比較的新しい表現方法であり、その特性は記録性、再現性、現実性、訴求力の高さである。また伝達媒体、メッセージ、言語という側面も持っている。

この授業では、動的映像設計を主体とした表現について、その歴史をひもとき、特徴を理解し、映像制作の過程を丁寧に演習しながら、作品構成のプロセスを学ぶ。実地でのカメラによる撮影や編集作業などは授業課程中には含まれないが、単なる「ビデオ制作のハウツー」ではなく、「動画による表現」の核心に触れることを目的とする。

課題の概要

○通信授業課題 1

テキストに含まれる参考作品を分析する。

○通信授業課題 2

テーマに沿った映像作品を企画立案し、構成する。

授業計画

[通信授業]

テキストと学習指導書をよく読んでから取り組むこと。

○課題 1

テキスト付属の DVD に収録されている作品の構成を分析する。

学習指導書に添付されたフォーマットを複製し、規定の書式で分析をまとめる。

○課題 2

課題 1 の分析結果を生かして、自作の映像作品の企画構成を行う。

学習指導書に添付されたフォーマットを複製し、作品の企画を他者に伝えやすくまとめる。

成績評価の方法

課題 1 と課題 2 の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

実技演習は含まれない。

教材等

教科書：板屋緑、篠原規行監修『映像表現のプロセス』（武蔵野美術大学出版局 2010 年）

学習指導書：『映像メディア表現Ⅰ 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

0760 | 映像メディア表現II

2単位（通信授業1単位、面接授業1単位）

牧野良三教授、山内道彦講師

授業の概要と目標

映像メディア表現IIは写真を使った映像表現を面接授業課題と通信授業課題2つの制作課題を通して学びます。写真は私達にとって大変身近なメディアです。デジタルカメラの普及と更に携帯電話等の様々なモバイル機器にもカメラの機能が搭載されて、写真を使ったコミュニケーションは日常化しています。写真は私達の生活で益々不可欠なメディアになっています。その一方で写真の表現自体は貧弱なものが少なくありません。このような状況にあって写真表現というものを改めて考え直しながら学ぶことは今日の美大生にとって有意義だと考えられます。本科目では写真を撮ることと見ることを通して日常で撮る写真とは違う写真を学び、写真で映像表現をする基礎的な思考を得ることを目標とします。

課題の概要

○面接授業課題

セルフポートレート（自画像）を撮影して、16枚の写真で構成した作品を制作します。

○通信授業課題

以下の言葉の中から1つ言葉を選んで、4枚の連続する写真で言葉を表現する作品を制作します。

日本人・21世紀・宇宙・たまご・携帯・東京・光と影・男と女・^{にわかあめ}驟雨・宗教・黙示録
時空・鍵・ブラックホール・IT・^{あまいろ}亜麻色・親と子・境界・原子力・^{ゼロ}0・^{こち}東風・夢

*課題の詳細は学習指導書『映像メディア表現II 2019年度』を参照してください。

授業計画

面接授業



通信授業

学習の順序は面接授業課題を合格してから通信授業課題に進んでください。

[面接授業]

面接授業を受講する前に学習指導書の内容をよく読み、可能ならば実際に自画像を撮ってみてカメラの操作などを事前に確認しておいてください。更に作品のアイデアを幾つか考えておくことが望まれます。また撮影で着る服やその他必要な小道具などがあれば用意してください。

第1日 午前 前半：前提講義。学生の参考作品などを紹介しながら課題制作の手順と本科目の学習に必要な基本知識の手引き。

第1日 午前 後半：クラスに別れて習作（コラージュ）を制作。
午後：習作（1枚の自画像）を制作

第2日 午前、午後：本作品の制作

第3日 午前：本作品の制作（写真のレイアウトと仕上げ作業）。

午後：作品のプレゼンテーション、ディスカッションと学生による作品の評価、講評（採点）。

[通信授業]

学習指導書の内容をよく読み、また面接授業で学んだ内容を確認してから制作に取り組んでください。

- 1：言葉を選び言葉の意味を確認する。
- 2：言葉から映像をイメージする。
- 3：絵コンテの制作1（イメージを基に絵を描くラフな絵コンテ）。
- 4：撮影1（絵コンテを基に写真撮影をする）。
- 5：コンタクトシートの制作と写真の確認。
- 6：撮影2（先の写真の結果から、写真の特徴を考えた撮影を心掛ける）。
- 7：作品のテーマと表現方法の決定（5、6を繰り返してテーマと表現方法を見つける）。
- 8：写真の選択と印刷（作品に係わる写真を選んで印刷する）。
- 9：映像構成と作品の仕上げ（時間軸に沿った映像進行を考えて写真を配置する）。
- 10：絵コンテの制作2（最終作品を元に改めて提出するための絵コンテを制作する）。
- 11：作品のテーマと意図について分かり易い文章で書く。

成績評価の方法

面接授業と通信授業の評価の平均点とします。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4年次

[履修条件] 学習の順序は面接授業課題を合格してから通信授業課題に進んでください。

[備考] 履修年次は問いません。

教材等

面接授業時に教員から必要に応じて配付。参考作品などはスライドや他の機器を使用して解説します。

学習指導書：『映像メディア表現 II 2019年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年）

0770 | レタリング

2 単位 (通信授業 2 単位)

白尾隆太郎教授、木村文敏講師

授業の概要と目標

情報化社会におけるコミュニケーションは、さまざまな媒体による幅広い展開がみられるが、その基本的なツールとして文字があげられる。文字によって人類の英知は記録され文明は発展してきた。この文明の発祥とともにそれを支えてきた文字は、今日の情報化社会においてもコミュニケーションの基本的なツールの意味は変わらない。デザインの観点からみれば、マス・コミュニケーションを可能にした印刷による文字、ひいてはその組版(タイポグラフィ)として文字が常に大きな関心事であった。時代は印刷文字のもつ訴求力やイメージや可読性を要求したが、コンピュータのディスプレイに表示される文字が馴染み深い文字になりつつある今日においても、そこに求められる要件に変わりはない。したがって、文字のデザインについて深い見識を得ることはデザインに関わる上での必須の技能といえる。

この科目はそのような意味から、デザイン全般の主要な基礎学習として位置付けられる課題が設定されている。日本で使用されている文字は、いうまでもなく漢字と平仮名・片仮名であるが、ラテン・アルファベットも多用されている。ここでは、印刷やディスプレイ上の基本とされるそれぞれの代表的な書体を書くことによって文字造型の原理を学びたい。また、汎用される書体(フォント)とは異なり、個性的でイメージの差異が求められるロゴタイプなど、広く文字デザインの世界の一端に触れることを意図した課題を出題している。

課題の概要

○通信授業課題 1

和文・欧文・ロゴタイプのレタリング

- 1-1. 自分の姓名を和文の基本的印刷書体である明朝体とゴシック体で書く。
- 1-2. 自分の姓名を欧文の基本的印刷書体であるローマン体とサンセリフで書く。
- 1-3. 自分の名前のロゴタイプを制作する。

○通信授業課題 2

和文と欧文のスペーシングの実習。

*課題については学習指導書『レタリング 2019 年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

1. 課題 1 (和文・欧文・ロゴタイプのレタリング) を、示された書体サンプルなどを参考にし、まず下書きを行う。3 点とも下書きの段階で提出し、指導を受ける。(1 次提出)
2. 返却された課題 1 の下書きの指導をもとに、課題 1 の作品を完成させる。
3. 課題 2 (スペーシング実習) を行う。
4. 完成した課題 1・課題 2、および指導を受けた課題 1 の下書きを提出する。(2 次提出)

成績評価の方法

1 次提出は課題 1 の下書きのチェックのみとし評価は行わず、2 次提出(仕上げた作品とチェックされた下書き)で総合的に評価する。科目の評価はすべての作品の評価の平均とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備考] 履修年次は問わない。

教材等

教科書：後藤吉郎、小宮山博史、山口信博ほか『レタリング・タイポグラフィ』
(武蔵野美術大学出版局 2002 年)

学習指導書：『レタリング 2019 年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年)

DVD 教材：『レタリング』

0780 | タイポグラフィ

2 単位（通信授業 2 単位）

清水恒平准教授、大原大次郎講師、宮添浩司講師

授業の概要と目標

タイポグラフィは活版印刷から DTP まで長い歴史の中で様々な技術的な変遷をたどってきた。数々のルールがあり、習得するには長い時間と訓練が必要である。この授業では、まずタイポグラフィの入り口として「文字」の楽しさを感じてもらいたいと思っている。最初の三つの小課題ではまさに文字の楽しさを感じてもらおうと思う。また、通信授業課題 2 では、実際の作品制作を通して、文字の視覚的な効果や最低限のルールを体験的に学んでもらいたいと思う。

課題の概要

○通信授業課題 1

3つの小課題

簡単な課題とレポートを通して、文字の世界を広げてもらう。

3つの小課題の制作とレポートをまとめて提出する。

○通信授業課題 2

CD ジャケットと歌詞カードの制作

こちらが提示する課題曲について、その楽曲にふさわしいイメージのジャケットと歌詞カードを制作する。制作にあたってはいくつか条件があるので、学習指導書をよく読んで制作すること。

課題曲はネットフォーラム上で発表する。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『タイポグラフィ 2019 年度』に従い、課題を制作する。

成績評価の方法

提出された課題評価の平均とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

以下のコンピュータ環境があること。

1. ワードプロソフトを利用できる。できれば DTP 関連アプリケーションが使える環境が望ましい。
2. インターネットに接続できる。
3. 音楽データを再生することが可能。

教材等

教科書：後藤吉郎、小宮山博史、山口信博ほか『レタリング・タイポグラフィ』

(武蔵野美術大学出版社 2002 年)

学習指導書：『タイポグラフィ 2019 年度』（武蔵野美術造形学部術大学通信教育課程 2019 年）

0790 | イラストレーション

2 単位 (通信授業 2 単位)

金子伸二教授、大竹紀美代講師、貞弘和憲講師

授業の概要と目標

制作を通じて、イラストレーションでの表現の幅と可能性を考える。目に見えない現象、内面世界やイメージの世界を視覚化する技法を学ぶ。また、自らが持つ表現技法を拡大し、独自の表現スタイルの確立を目指す。教科書を参考に、イラストレーションのルーツや、現在の可能性、世界観を学び、第三者の鑑賞に耐えうる作品の制作方法を修得する。

課題の概要

○ 通信授業課題 1

「写真とイラストレーション」

写真の内容をイラストレーションと文章を使って表現する。一見ばらばらに思える「写真」「文字」「絵」を一枚の紙に構成することで、3つの表現のバランス感覚を養いながら、イラストレーションの技術を習得する。

○ 通信授業課題 2

「いまの“わたし”に至るまで」

美術を志すきっかけとなった出来事を、イラストレーションと文章を使って表現する。自らの創造の原点を探し、それらを第三者へ伝えるための技術を習得する。

* 課題については学習指導書『イラストレーション 2019 年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

・ 描かれる世界

(イラストレーションとは/未知の世界へのまなざし/見えないものを描く)

・ 書物とイラストレーション

(書物と挿絵の出会い/書物の中の挿絵/書物と挿絵の出会い/諷刺画がつくり出したイメージと擬人化/挿絵と印刷技術の深いかわり/挿絵からイラストレーションへ—挿絵本と絵本)

・ ことばとイメージ

(絵本におけることばとイメージ/ことばとイメージの相互作用/ことばの視覚化/イメージの視覚化/イメージのひろがり)

成績評価の方法

課題作品の評価の平均による。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4年次

[履修条件] なし

[備考] 履修年次は問わない。

教材等

教科書：今井良朗編著『絵本とイラストレーション—見えることば、見えないことば—』

(武蔵野美術大学出版局 2014年)

学習指導書：『イラストレーション 2019 年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年)

0800 | 絵本

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

金子伸二教授、野崎麻理講師

授業の概要と目標

面接授業では、造形的な絵本の制作を通して、文字と図像のレイアウト、造本のしくみなどを実際に体験して学習する。

通信授業では、グラフィック表現による絵本の制作実習を通して、表現として具体化するための方法論と編集デザインの視点から絵本の構造や表現の特性、イラストレーションの表現について学習する。

課題の概要

○面接授業課題

「絵本一言葉からのイメージ表現」

初めに、見どころのある絵本を実物や映像などで紹介し、展開のおもしろさやイラストレーションと文字の表現、造本の工夫などを学ぶ。そこから学んだことを基に、与えられた素材とテーマに基づいてはさみとのりと色鉛筆による表現で絵本を制作する。

課題は、テーマとして「明るい・暗い」、「うれしい・かなしい」、「曲線・直線」、「高い・低い」など各自、自由に反対語を 1 つ選び、それを基にした内容を 12 ページの本の中に表現する。素材は用意された約 30 色ほどのラシャ紙（色画用紙）の中から選び、A4 変形の判型の本の形に製本をまとめてみる。

○通信授業課題

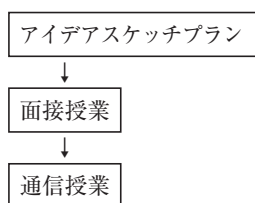
「絵本の制作」

編集デザインの視点を重視したオリジナルの絵本を制作する。1. 既刊の絵本の研究、2. オリジナルのストーリーの作成、又は文章作品の選択、文章と絵の編集、3. 造本計画、4. 素材の選択、5. イラストレーションの制作、レイアウト、6. 製本作業、という手順を通して実際に自己表現を 1 冊の本にまとめる。本の編集、制作を実体験することから本におけるイラストレーションのあり方とブックデザインの成り立ちを考える。

判型は、B4 以内自由、本文 16 ページを綴じて表紙、見返しをつけ、装幀のデザインを施し、本としてまとめられたものとする。素材、内容、表現方法は自由。制作物と共に本の制作過程についての 600～800 字程度のレポートを添付する。

* 課題については学習指導書『絵本 2019 年度』を必ず参照すること。

授業計画



面接授業課題を合格してから通信授業課題へ進むこと。

[面接授業]

事前に学習指導書をよく読み、授業にアイデアスケッチプランを持参すること。

第 1 日 午前：参考絵本についての講義・課題説明 午後：絵本制作の実習

第 2 日 全日：絵本制作の実習・製本についての講義

第 3 日 午前：絵本制作の実習 午後：講評

[通信授業]

- ・教科書を読み、絵本に関する基礎的知識を習得する。
- ・教科書や学習指導書を参考にすぐれた絵本を鑑賞し、絵本への見識を高める。
- ・学習指導書に従って、通信授業課題に取り組む。

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題を総合して評価する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備考] 履修年次は問わない。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

教材等

教科書：今井良朗編著『絵本とイラストレーション—見えることは、見えないことば—』
（武蔵野美術大学出版局 2014 年）

学習指導書：『絵本 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

0810 | パッケージデザイン

2 単位 (通信授業 2 単位)

白尾隆太郎教授、福井政弘講師

授業の概要と目標

我々に最も身近なデザインの一つであるパッケージデザインは広範な知識と技能が常に要求されるデザイン分野である。それは、パッケージデザインが形態・意匠・材料・加工といった要素を多く含み、それらが複雑に作用し成立しているからである。また、パッケージデザインはその対象のほとんどを一般消費者としており、時代によって変化するニーズが常に反映されるものである。

この科目では、パッケージデザインの実際、パッケージの基本概念、パッケージの目的と機能、パッケージの構造デザイン、パッケージのグラフィックデザインを学ぶ中で「パッケージデザインとは何か」を理解していく。さらに現代社会での包装の意味、今日的課題でもある環境問題についても考えていき、パッケージデザインの基本的知識と製作感覚の両方を理解してもらうことを目標とする。

課題の概要

○通信授業課題

1. 自分の興味のあるパッケージを2つ購入して、それを観察、レポートしなさい。
 - ・ パッケージを選んだ理由をそれぞれに述べ、そのパッケージが対象としている人（購買層）、内容物との関連性、価格との関連性、材質・形態・デザインとの関連性について分析する。
 - ・ 購入したパッケージはレポートに同封すること。
 2. 身近にある『米』『あずき』『珈琲豆』『ジェリービーンズ』から一つを選び、包装してこぼれないようにして郵便で送りなさい。
 - ・ サイズは、10センチメートル角の立方体。
 - ・ 材質は限定しない。
- * 課題については、学習指導書『パッケージデザイン 2019年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

通信課題を行う過程で、以下の切り口を段階的に学んでゆくことが求められる。

- ・ パッケージデザインの実際
- ・ パッケージの基本概念
- ・ パッケージの目的と機能
- ・ パッケージの構造デザイン
- ・ パッケージのグラフィックデザイン

成績評価の方法

提出された課題の評価の平均。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4年次

[履修条件] なし

[備考] 履修年次は問わない。

教材等

教科書：白尾隆太郎監修、福井政弘+菅木綿子著『パッケージデザインを学ぶ 基礎知識から実践まで』（武蔵野美術大学出版局 2014年）

学習指導書：『パッケージデザイン 2019年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年）

その他

参考文献：フミ・ササダ『CIKTMUPS パッケージデザインのすべて』（宣伝会議ビジネスブックス 2011年）

佐藤卓『デザインの解剖①=ロッチェ・キシリトールガム』（美術出版社 2001年）

金子修也『パッケージ・デザイン—夜も地球もパッケージ』（鹿島出版会 1989年）

0820 | ファッションデザイン

2単位（通信授業1単位、面接授業1単位）

牧野良三教授、天野勝教授、古川巳代子講師、山本篤子講師、中澤小智子講師

授業の概要と目標

本学通学課程のファッションデザインコースでは、ファッションを衣服の形態や素材の研究だけに止どめず、アートやコミュニケーションなど隣接する領域との融合を目指す創作に力を入れた授業が組まれている。美術大学ならではの、身体をめぐる芸術表現として「ファッション」を超える作品を創作することで、より豊かな発想力と柔軟な感性を鍛えることを目的としている。

この授業では、面接授業で衣服をメディアとした造形物「身につけるアート」を制作するが、この制作を通して、ファッションを単なる身体装飾や一過性のとらえどころのない現象として見るのではなく、新たな視点で捉えその可能性を再発見するとともに奥行のある領域であることを再認識してもらえればと思う。

課題の概要

○通信授業課題春・冬（素材研究）

衣服制作には、素材研究が欠かせない。面接授業でのスカーフ制作に必要な素材とは、材料の布に限らず、色、形、質感や機能も含む制作しようとするスカーフの全てに関わる事を意味している。スケッチブックをもとにサンプラーを作成し、春期スクーリング初日（6月21日）もしくは冬期スクーリング初日（11月22日）に持参、提出する。

※ 提出期日厳守のこと。提出が遅れた場合、スクーリングを受講できません。

○面接授業課題春・冬（素材研究）

通信授業でつくったスケッチブックをもとに、自由な発想でオブジェ感覚のスカーフ「身につけるアート」を制作する。面接授業の前に授業時間内に完成可能なデザインのラフ案および素材をいくつか準備しておく事が望まれる。尚、材料は布に限らない。制作したスカーフを身につけて発表する。

○通信授業課題夏（ベスト制作）

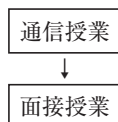
面接授業での作品制作に必要な各自の体型に合わせたベストの型紙を作る。衣服制作には、型紙（パターン）が欠かせない。型紙とは制作物の実物大の平面製図を切り抜いた紙のことをいい、英語ではパターンという。これを基に実制作の布を裁断、縫製する。ベストとは袖なしの胴衣のことで、日本語ではチョッキともいう。また英国ではウエストコート [Waistcoat] という。

※ 提出期日（6月18日）厳守のこと。提出が遅れた場合、スクーリングを受講できません。

○面接授業課題夏（ベスト制作）

通信授業課題で作った型紙をベースに、自由な発想でオブジェ感覚のベスト「身につけるアート」を制作する。学習指導書の参考作品を見て、面接授業の前にラフイメージをいくつか考察することが望まれる。

授業計画



[通信授業]

『ファッションデザイン学習指導書』による。

通信授業課題春・冬、または、通信授業課題夏のいずれかを選択する。

通信授業課題春・冬を選択した場合は、春期スクーリングもしくは冬期スクーリング、通信授業課題夏を選択した場合は、夏期スクーリングのみの受講となる。

選択課題	提出方法と提出期限	受講可能なスクーリング
通信授業課題春・冬	スクーリング初日に持参 ※ 事前提出不可	春期スクーリングもしくは冬期スクーリング
通信授業課題夏	6月18日までに提出 ※ 期日厳守	夏期スクーリング

[面接授業]

第1日 午前：前提講義及び制作 午後：制作

第2日 午前：制作 午後：制作

第3日 午前：制作 午後：講評

成績評価の方法

通信授業と面接授業の制作過程及び制作結果を総合的に評価する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4年次

[履修条件] なし

[備考] 履修年次は問わない。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある（夏期スクーリング 20名）。

教材等

教科書：小池一子編『Fashion—多面体としてのファッション』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

学習指導書：『ファッションデザイン 2019年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年）

0830 | 図法製図 I

2 単位 (通信授業 2 単位)

牧野良三教授、柴田克哉講師、富谷智講師

授業の概要と目標

製図は、私達の生活を成り立たせているさまざまな情報の、図的表現の主要な方法である。狭義には産業における普遍的な伝達手段といってよい。特に建築設計や製品製造においては国際的に通用する工学的な言語である。したがって、産業の上に成立するデザインの基本的な表現技術でもある。

製図は、いま ISO (国際標準化機構) で統一が計られているが、投影法という表現の原理を得るまでには図学的な研究が重ねられてきた。この科目は、その図学の基礎にふれながら、製図の図法的原理である幾つかの投影法を学ぶことを目標にしている。

課題の概要

○通信授業課題 1

平面図形と立体図形の作図の基礎を中心にした出題。

出題 1 平面図形に関する出題

- 1-1、2 線と文字の練習と寸法の記入練習
- 1-3、4 平面図形の作図法の習得と黄金分割の作図
- 1-5 円の作図
- 1-6 楕円の作図法

出題 2 立体図形に関する出題

- 2-1 与えられた条件で加工された立体の正投影法による作図
- 2-2 等角投影による等角図の作図
- 2-3 副投影図を用いた第一角法による立体の作図
- 2-4 二点透視図の作図

○通信授業課題 2

透視図の作図を中心にした出題。

- 出題 1 円錐の断面図形の作図
- 出題 2 平面図形の一点透視図の作図
- 出題 3 立体の二消点法による透視図の作図

* 課題については学習指導書『図法製図 I 2019 年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

- I 概説
- II 平面図学
- III 立体図学 (複面投影) : 正投影、回転体、多面体、曲面、切断、相貫、展開図など
- IV 立体図学 (単面投影) : 透視投影、斜投影、軸測投影、標高投影
- V 製図総則

成績評価の方法

2 通の第 1 回作図レポートの評価と第 2 回作図レポートの評価の平均とする。

履修条件及び履修年次

- [履修年次] 1 ~ 4 年次
- [履修条件] なし
- [備 考] 履修年次は問わない。

教材等

教科書 : 堤浪夫『図学・製図』(武蔵野美術大学 2002 年), 補遺
 学習指導書 : 『図法製図 I 2019 年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年)

0840 | 図法製図 II

2 単位 (通信授業 1 単位、面接授業 1 単位)

牧野良三教授、桜井隆樹講師、山本博一講師

授業の概要と目標

私達の生活を成り立たせているさまざまな情報の図的表現の方法に製図がある。製図は狭義には建築設計や製品製造など産業における普遍的な伝達手段で、国際的に通用する工学的言語である。また、レンダリングやパースも製図と相まってデザイン表現の主要な方法である。特に、工芸工業デザインの各領域や工芸において基本となる表現技法とされている。

通信授業では、製図の実際的技能を、「図法製図 I」の「図法」で習得した各種投影法の理解のもとに、図面表現の技法を学習する。また面接授業では、「図法製図 I」で習得した透視図法をもとに正確なデザインスケッチを描く技法と立体を正確に把握する技術を学習する。

なお、課題の概要に記載されているように、「図法製図 II」では課題 A と課題 B が設定されていてどちらかを選択する。課題 A はプロダクトデザイン系の立体的なもの作りに関する製図、スケッチなどの表現技術の習得。課題 B ではスペース、空間系の製図、パースなどの表現技術の習得を目的としている。

課題の概要

○課題 A 及び課題 B のどちらかを選択する。

課題 A [面接授業] スケッチと図面による立体表現
(プロダクト系) スケッチ、三面図、展開図による立体表現の学習
ペーパーモデルの制作と立体把握の学習

[通信授業] 出題 1 トレース
指定された図面を正確に描き写す

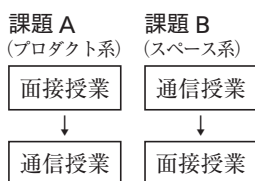
出題 2 製品の実測と製図
身の回りにある工業製品を実測し製図におこす

課題 B [通信授業] 木造小住宅の製図。
(スペース系) 資料をもとに木造小住宅の平面図・断面図・立体図を製図する。

[面接授業] 1 点透視図法で室内パースを描く。
配付資料の図面を元に 1 点透視図法で室内パースを描く。
家具調度品を描き加え着色を施し仕上げる。

* 課題については学習指導書『図法製図 II 2019 年度』を必ず参照すること。

授業計画



課題 A [面接授業] 教科書『ドローイング・モデリング』の内、「デザインスケッチ」の内容に順じて学習する。
[通信授業] 教科書『ドローイング・モデリング』の内、製図、製図法の内容に順じて学習する。

課題 B [通信授業] 教科書『ドローイング・モデリング』の内、製図、製図法、スペース系製図の内容に順じて学習する。
[面接授業] 教科書『ドローイング・モデリング』の内、「デザインスケッチ」の内容に順じて学習する。

成績評価の方法

通信授業と面接授業の評価の平均とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4 年次。
[履修条件] 「図法製図 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。または相当の学習歴を有すること。
[備考] スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

教材等

教科書：横溝健志、小石新八編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局 2003 年）
学習指導書：『図法製図 II 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

その他

参考文献：堤浪夫『図学・製図』（武蔵野美術大学 2002 年）（「図法製図 I」の教科書）

0850 | マルチメディア基礎

3 単位（通信授業 2 単位、面接授業 1 単位）

清水恒平准教授、望月重太郎講師

授業の概要と目標

テレビ・PC・スマートフォン・タブレットなど、情報との接触機会は社会生活の多くの場面で非常に多様化してきています。また、Google 検索、YouTube、Facebook、Line、Twitter、etc…といった Web サービスや SNS などから、様々なマルチメディアコンテンツ（映像・写真・音・テキスト）に触れる機会が増えてきています。

本科目では、そのようなマルチメディアを取り巻く環境と特性を把握した上で、「マルチメディアなものづくり」の基礎となる映像・写真・音・テキストを使ったデジタル表現の入り口に触れ、主に PC を中心とした触覚・聴覚・視覚に作用する心地よい表現のノウハウと手法の基礎を学びます。

課題の概要

○通信授業課題 1

学習指導書『マルチメディア基礎 2019 年度』に提示されるテーマから、10 個以上の事例を探してレポートを作成する。

主に PC /スマートフォン向けの様々な Web サイトを閲覧し、マルチメディアの表現手法をテーマに沿って読み解くことを目的とする。

○面接授業課題

課題発見ワークショップと、それを元にしたインタラクティブ作品の制作。

3 日間のうち、初日はムービーを使用したレポートの制作・発表を行い（グループワークを想定）、残り 2 日間で PC 用アプリケーション（Adobe Animate など）を使用したインタラクティブ作品の制作・発表を行う（個人ワークを想定）。

○通信授業課題 2

学習指導書『マルチメディア基礎 2019 年度』に提示されるテーマで、シンプルなアニメーション作品を制作。規定の Web サービス上（Tumblr）にアカウントを開設し、作品をアップロードする。

本カリキュラムを通じ、マルチメディアコンテンツで行われている表現の工夫に触れ（通信授業課題 1）、マルチメディア表現の入り口となる制作を実践し（面接授業課題）、テーマに沿って制作した作品をインターネット上に公開する（通信授業課題 2）この一連の流れを体験・学習することで、製作者としてのマルチメディアコンテンツへの向き合い方の基礎を作ることを目的とする。

授業計画

面接授業では、通信授業課題 1 の成果を前提とした学習を行うので、予め提出しておくことが望ましい。

成績評価の方法

通信授業・面接授業の課題評価の平均点とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考]

- 履修年次は問わないが、1～2 年次までに履修するのが望ましい。
- 以下の条件を満たすコンピュータ、ソフトウェアを所有するか、もしくは利用できること。
 - ・Macintosh または Windows で、Web ブラウジング・電子メール送信が可能な環境を有すること。
 - ・レポート作成の編集作業ができるソフトウェア（PowerPoint、Word、Keynote など。Google ドライブなどの Web アプリケーションでも構わない）。
 - ・画像加工・動画編集が可能なソフトウェア（Adobe Photoshop、Adobe illustrator、Adobe Animate、iMovie など）。
- スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

教材等

教科書：清水恒平『マルチメディアを考える』（武蔵野美術大学出版局 2016 年）

学習指導書：『マルチメディア基礎 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

その他

面接授業について：初日はグループワークを行う。

0890 | コンピュータ基礎 I

2 単位 (面接授業 2 単位)

清水恒平准教授、小西俊也講師、森山漸講師、須田拓也講師

授業の概要と目標

日常生活のみならず美術やデザインの分野においてもコンピュータの利用は不可欠であるが、各分野の専門や個人でその利用方法は様々であるのが現状だろう。色々な用途に使用できるがゆえに、コンピュータを日常的に使用している人たちの間でも理解の範囲に差が生じることがある。この科目では特定のソフトウェアの使用法に主眼は置かず、日常生活や各専門分野でコンピュータを利用する上で、最低限理解しておいた方がよい基礎知識・技能の習得を目指す。それは他の分野の人々と共にコンピュータを利用する場面があったとしても、同じ言葉で話せるようになることを目標とすることでもある。

コンピュータサイエンスの分野では、一般の使用者がわからないままにしがちな基礎として、ハードウェアやソフトウェアの仕組み、プログラミングの基礎知識や技能、情報通信の基本、情報理論やコンピュータの歴史などがある。またそれらの応用としてコンピュータの社会・研究などへの活用事例、例えば美術やデザインの分野での先進的利用、情報機器による計測及びその制御、モデル化とシミュレーション及びその可視化などといった事例を知っておくことも重要である。

授業では美術やデザインの分野で必要なコンピュータ関連の基礎知識の習得はもちろんのこと、上記のようなコンピュータサイエンスの分野におけるコンピュータの基礎に関する講義、実験などを適宜盛り込みつつ、それらの総合的な理解を目標とする。その理解は美術やデザインの専門分野において、基礎的な知識を応用しコンピュータを有効に利用できるようになることにつながると考えている。

課題の概要

○面接授業課題

前半は、小課題が出題される。また全日を通じ各種データを作成する課題制作を行う。

授業計画

[面接授業]

各日、ハードウェアの性能、コンピュータで扱う数値・文字・色・画像・音、ネットワーク、プログラミングなどのテーマを設定し、講義、実習、課題制作を行う。主な実習内容は以下の通り。

- ・各種ハードウェア機器・部品の性能調査
 - ・バイナリエディタを使用したテキストファイル、画像ファイルの作成
 - ・音声ファイルの編集 ・ネットワーク環境の調査 ・processing を使用したプログラミング実習
- その他、補足的な講義・実習も併せて行われる。

成績評価の方法

各課題の評価を総合的に判断する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4年次

[履修条件] なし

[備考] 履修年次は問わないが「コンピュータリテラシー I」程度の知識は有していること。少なくとも「コンピュータリテラシー I」の教科書「コンピューターと生きる」は通読し、内容を理解しておくこと。「情報システム基礎 I・II」を受講する学生は事前に本科目を履修していることが望ましい。

授業で使用するコンピュータは Windows を予定しているが、授業内で基本操作（テキスト入力やマウス操作など）の説明は行わない。操作に不安のある学生は事前に練習をし授業に参加することが望まれる。テキスト入力やマウス操作の他には、最低限、Web ブラウザを使用した Web の閲覧及び検索エンジンの使用が可能であれば、実習はスムーズに行えるはずである。

「基礎」イコール「簡単」というわけではない。基本操作に自信がない人は必ず「コンピュータリテラシー I」を履修すること。

スクリーニング時に、受講人数を制限する場合がある。

教材等

学習指導書：『コンピュータ基礎 I・II 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

その他

参考文献：ケイシー・リース、チャンドラー・マクウィリアムス、ラスト 久保田晃弘監訳 吉村マサテル訳『FORM + CODE デザイン／アート／建築における、かたちとコード』（ビー・エヌ・エヌ新社 2011）

佐藤淳一『コンピューターと生きる』（武蔵野美術大学出版局 2018 年）

Casy Reas, Ben Fry 著、船田巧訳『Processing をはじめよう』（オライリージャパン 2011 年）

面接授業について：テーマによりペアワーク・グループワークを行う場合があります。

0900

コンピュータ基礎 II

2 単位 (通信授業 2 単位)

清水恒平准教授、井上智史講師

授業の概要と目標

現在では、コンピュータを使用するといっても、ソフトウェアの使用方法を覚えれば、ある程度の作業はできてしまう。しかし、専門的な分野におけるコンピュータの活用方法を考えるためには、ソフトウェアが行う処理、プログラムへの理解が必要となる。その理解は、美術やデザインの分野でいえば、他人が作った道具だけによらない作品制作やデザインの可能性を開くことにつながるだろう。

この科目では、コンピュータ・プログラムによって平面作品を制作する。その作業を通じ、プログラミングの基本はもちろんのこと、制作の手順そのものに自覚的な態度を身につけること、コンピュータを制作に使うことのメリットや意義について考えること、を目的とする。

課題の概要

○通信授業課題 1

プログラムで絵を描こう

[基本: 点・線・面、色、繰り返し、ランダム]

○通信授業課題 2

プログラムで絵を描こう

[応用: 作品の作り方を作ることを意識する]

* 課題については、学習指導書『コンピュータ基礎 I・II 2019 年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

学習指導書や教科書の該当箇所を確認しながら課題を進めることになる。教科書や学習指導書だけで課題の進行が困難な場合には、Web サイトやその他の参考文献を各自参照し、課題を進めること。

成績評価の方法

各課題の評価の平均とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わないが、「コンピュータ基礎 I」を事前に履修するか、同程度の知識を持っていることが望ましい。

「情報システム基礎 I・II」を受講する学生は本科目を履修することが望ましい。

下記の条件を満たすコンピュータを所有するか、もしくは利用できること。

・インターネットに接続でき、Web ブラウザを利用できること。

・テキストエディタ、ワープロなど、文章を編集できるソフトウェアが利用できること。

また、プリンタを所有するか、利用できることが望ましい。

教材等

教科書: 『[普及版] ジェネラティブ・アート—Processing による実践ガイド』(マット・ピアソン著 久保田晃弘監修 沖啓介訳 ビー・エヌ・エヌ新社 2014)

学習指導書: 『コンピュータ基礎 I・II 2019 年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年)

その他

参考文献: 『Generative Design — Processing で切り拓く、デザインの新たな地平』(Hartmut Bohnacker、Benedikt Gross、Julia Laub、Claudius Lazzeroni 編 THE GUILD (深津貴之、国分宏樹) 監修 安藤幸史、杉本達應、澤村正樹訳 ビー・エヌ・エヌ新社 2016)

『FORM + CODE デザイン/アート/建築における、かたちとコード』(ケイシー・リース、チャンドラー・マクウィリアムス、ラスト 久保田晃弘監訳 吉村マサテル訳 ビー・エヌ・エヌ新社 2011)

2490 | デジタルファブリケーション実習 | 1単位（面接授業1単位）

清水恒平准教授、成田達哉講師

授業の概要と目標

近年のものづくりは、デジタル機器の発達により、大きく変化しています。3Dプリンターやレーザー加工機といったデジタル加工技術が急速に発達し、これまでの手作業によるもの作りとは違う可能性が広がっています。また、Arduinoのような小型のマイコンボードを使用することで、モーターやサーボといったアクチュエーター、距離センサーや圧力センサーなどを比較的簡単に扱うことができるようになりました。これらの技術を利用することで、これまでは難しかった実際に体験出来るプロトタイプを比較的短い時間で組み上げることが可能になりました。このような流れは近年ますます活発になっていきます。

本科目は、そのようなデジタル技術への導入となるものです。作品制作を通して、簡単な電子工作やレーザー加工機を扱うためのデータ作成方法を学ぶことで、デジタルファブリケーションの基礎的な知識を習得することを目的とします。

課題の概要

「のぞく」「なでる」「めくる」など“人間の行為”を一つ取り上げ、その行為にシームレスに反応するデバイスを制作せよ。

制作はマイコンボード（Arduino）とスイッチ（タクトスイッチ、リードスイッチ傾斜、スイッチ等）、アクチュエーター（サーボなど）を用いて、行為の取得と動きのプログラミングを行い、レーザー加工機や3Dプリンターを用いて外装および機構の設計を行うこと。

授業計画

- 1日目 前提講義
アイデア発想および中間発表
- 2日目 制作
- 3日目 制作
プレゼンテーション／講評

成績評価の方法

制作した作品とプレゼンテーションの内容によって評価する。

履修条件及び履修年次

- 〔履修年次〕 1～4年次
- 〔履修条件〕 なし
- 〔備考〕 履修年次は問わないが、illustratorによるデータ作成や、簡単なプログラミング（Arduino）を行うため、「コンピュータリテラシーⅢ」程度の基本的なコンピュータ操作ができること。「コンピュータ基礎Ⅰ」「コンピュータ基礎Ⅱ」「情報システム基礎Ⅰ」「情報システム基礎Ⅱ」のいずれかのスクーリングを受講済みであることが望ましい。
Processingなどの、初歩的なプログラミングのスキルを有するものに限る。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

教材等

グループに一台ずつ Arduino 開発キットを貸与します。

その他

面接授業について：グループワークを行う。